

南病棟 8 階

(眼科、糖尿病・内分泌・栄養内科、共通病床)

1. 看護単位の概要

病 床 数 44 床

眼科 39 床 糖尿病・内分泌・栄養内科 3 床 共通病床 2 床

2. 病棟の特徴

1) 眼科

白内障、緑内障、網膜剥離や糖尿病性網膜症、眼科循環疾患などに対して外科的治療を行っている。また、加齢黄斑疾患が増加しており、網膜静脈閉塞症や脈絡膜新生血管、黄斑浮腫に対して硝子体内の薬剤注入術や光線力学的療法など身体への侵襲の少ない治療も行っている。

患者は、高齢者が多く、既往歴も多い。短い入院期間の中で術前・術後の管理と薬剤の管理、および転倒転落など安全面に配慮した環境整備に取り組んでいる。視覚障害を持つ患者の QOL 低下を防ぐための看護介入も必要である。患者の退院後の生活状況を把握し、一人一人の患者に合った支援ができるよう、視覚障害者施設（京都ライトハウス）とも連携し、入院・外来・地域へと継続した看護が提供できるように活動している。

病棟看護師は、周術期看護と同時に在宅療養支援を効果的に行えるよう、地域ネットワーク医療部等、多職種との連携を密にして早期からの介入に取り組んでいる。

その一つに外来から始める療養支援として、入院前に支援が必要な患者の情報を外来看護師から病棟へ伝えて共有している。また退院後には外来受診日に合わせて患者に対面し支援の評価を行い継続看護に取り組んでいる。

これらの継続した看護は、病棟・外来一元化により実現できている。

2) 糖尿病・内分泌・栄養内科

糖尿病患者には、治療方針に沿って、内服管理、血糖測定、インスリン自己注射、低血糖対応、フットケアなどの指導・教育を行う。また、医師・管理栄養士・薬剤師・運動療法士等、他職種と協働し、患者だけではなく家族も援助の対象と捉え、退院後の生活を調整し、患者のセルフケア能力を高められるように援助している。

内分泌疾患は、全身の多くの器官から分泌されるホルモンの異常であり、その病態は全身に及ぶこともある。看護師は、全身を観察しつつ、安心・安全・安楽に入院生活を送れるように援助している。